

4月号の天気コラム

トリプルパンチ

春はお肌のトラブルが多い季節です。日差しは暖かく心地よいのですが、これは紫外線がつよくなってきた証拠。また、春のつよい風は肌の水分を奪ううえに、花粉や砂ぼこりで肌を汚します。さらに、気温の変動が大きいこの時期は、皮脂の分泌量に変化して、皮膚が敏感になりやすいのです。紫外線対策、洗顔、水分補給を心がけて、トリプルを防ぎましょう。

*『季節と暮らす365日(日本気象協会編、アリス館)』より

会報閲覧室(玉造連盟事務所)『ポンポン山』2017年3月号・No.372

高槻勤労者山岳会／19頁

毎月、各会から会報や府県連盟ニュースが連盟事務所に届けられています。この会報・ニュースは、いつでも閲覧できるように連盟事務所(玉造)の会報閲覧コーナーに置いています。いつでも是非ご覧ください。

今月は高槻労山の機関紙を紹介しましょう。高槻労山から毎月、会員の版画表紙の会報が届きます。近年の作者は三鍋敏郎さん、山岳地形や花の版画が多く、時には解説の文字入りも見られる力作です。毎号、「表紙をコピーしてほしい」という連盟理事のファンもおられるほど。また、三鍋さんは仕事の都合で毎月曜には近郊の山に向かわれ、そのたびに必ず山行報告を書かれているようです。一つひとつの山行は「ポンポン山雑感」と副題をつけ、それぞれB5の1ページに収められています。近郊の山と言ってもバリエーションルートや地図読みの内容も多く、いつか同行をお願いしたほどのレポートでした。目次を拝見させていただくと、ページの大半が大勢の会員が企画された山行計画と山行報告がびっしりあるのも特徴、会活動の活発さが伝わってきました。

4月、この一冊を 『山の自然学』(小泉武栄、岩波新書)

最近、枕元に置いているのが岩波新書の『山の自然学』、「多彩な美しさに満ちた日本の山の自然はどうしてできたのだろうか」の問いかけに日本各地の山をとりあげて、植物分布や地形の不思議を存分に語った自然学入門書です。私は毎朝午前5時頃に起床、起床時にこの本でつい朝イチの時間オーバーで慌てて出勤することも。それでも山歩きがいつそう楽しくなればこれも幸せです。

この本の特徴の一つは、どのページからも読み始めることができることです。近畿地方編は鈴鹿山脈(藤原岳・伊吹山)をとりあげ、具体的に植物分布や地形を分かりやすく紹介しています。藤原岳では「それにしてもなぜ、これほど植物が多いのだろう」と読者に問いかけています。そのヒントにこの山が石灰岩からなることも大きいと述べ、カルスト地形の学習が大いに役立ちました。4年前春、藤原岳で出会ったセツブンソウの群生も、著者の地形の説明からも理解ができました。

◇編集後記◇

2017年度の連盟機関誌部がスタートしました。この一年も8名の機関紙部員で協力して頑張っていこうと決意したところです。『大阪労山ニュース』も少しリニューアル化して、少しでも会員の方に読んでいただけるようにとその他のページを工夫してみました。従来の山行報告や白馬だよりに「楽しい地図情報」「山岳気象入門（5月号より）」「編集者のページ」などの連載を企画しました。機関誌全体の編集や企画についても、これからも連盟の各会会員の声を聴きながら、新しい『大阪労山ニュース』を発行していきたいと思えます。

ところで泉州労山では昨年の2月から熊野古道を企画していました。担当は私とW氏の二人で、「基本的に偶数月の土曜日で日帰り」で、全熊野古道745^{km}を繋いでいこうというプランです。先月は1泊2日で那智～熊野本宮大社の中辺路に行ってきました。天候も快晴、風もなく気持ちの良い山歩きを楽しみました。宿は中間点の小口自然の家（写真左）、翌日ここから歩くのが小雲取越えで、今も石畳の古道やかつての道標（写真右）、茶屋跡などが熊野古道の歴史を感じさせます。



今月も各会より会報を送っていただきました。

安治川山の会ニュース（安治川山の会）、やまなかま（泉州労山）、きたろうニュース（きたろうHC）、にしよど（西淀労山）、ぼんぼん山（高槻）
奈良県連ニュース、滋賀県連ニュース、福岡県連通信、労山おかやま、やまと友の会、HCかざぐるま、京都労山、噴煙（鹿児島労山）、兵庫労山会報、県連ニュース（和歌山労山）

編集・発行 入澤、大西秀、笠井、園、高橋、中井、中尾、大西清
